

稲叢山

西門山

山頂は稲叢大権現の祠が祭られていて、遠くに石鎚山方面がとんと見えて、眼下には広々とした本川の山並みと大橋ダム。雄大な景色が広がる。

稲叢山
1,506.2m

土佐町といの町の境にそびえる稲叢山。その昔は魁城山とも呼ばれていた。壇ノ浦の戦いに敗れた平家落人一行が幼い安徳天皇を奉じて、この山の洞窟に隠れ住んだという。安徳天皇が豊穡を祈り、稲叢山と命名したとか、山の上に三セがかり稲に似た草、稲叢がかり、安徳天皇がこれを食されたことによるとも伝えられている。平家の人々は、何を思ひ、ここでどんな日々を過ごしていったのだろうか。

新百名山
登山家の岩崎元郎が踏破した頂王の数を競うのではなく、人生を豊かにあるためにこの山に登りたいという思いを込めて選んだ百名山に稲叢山が選ばれている。

登りはじめはいつもちょっと緊張する。「入らせてもらいます」心の内でつぶやいて頭を下げて歩き始める。山は厳かだ。

山頂はきれいにとけおれ、とても静かだ。この先に東門山が位置する。(東加馬小屋) 1496.7m

「にしかじや」と呼ばれ、方角によっては門の形に見えるとも言われる。

静かな山の中を一人で歩くと、いろいろなものが抜け落ちて、心がとけおれ、とても気持ちいい。本来無一物。

稲叢山をはじめ、各地の登山道は山を知り、山を守るという思いを持って人たちが汗を流して整備してくれている。私たちがその道をたどって歩かせてもらい、楽しみを享受してもらっている。せめて、ゴミを捨てるか、何か少しでも協力してあげたいと思う。

稲叢山を源流とする瀬戸川。早明浦ダムで吉野川と合流するまでの渓谷は見どころがいっぱい。中でも河内神社の夫妻杉には、その迫力ある巨木に圧倒された。また、アケボノツツジの滝はアケボノツツジの滝を遡っても、これ以上と流れて登れず、引き返すことから名付けられたといふ瀬戸川渓谷、美しい。

朝早く山に向かう山が近づいてくる山に向かう幸せな高揚感も山歩きの魅力のひとつ。



眼前に広がる絶景に息をのま、たまらぬ。

見晴らしがよい、根元が広がる。

北側は断崖、大岩、奇岩群。

フナノ天然林、大岩の門みたい。

山頂でも水は引がある。まっとうな木が水を吸いあげ、たくわえているからだろう。いい山だ。

西門山 1496.7m

このコースは葉が開く前の芽吹直前の季節がとてもいい感じだ。2025.4.30(アケボノ)満開

若葉の息吹を、小鳥の巧みさ、足元に咲くかわいいミミヤ、今と昔のツツジ。新たな生命に生きる力を分け与える。遠くには石鎚山系の山並み。さわやかな風を身にまとう。

フナノ天然林、写真撮影。

視線の上にのびてみる。上へ上へと伸びる木は、崇高で美しい。

保線道コースは、ようすのいい、かほのいい。

滝もみり、花もみり、伝説もみり、洞窟コース楽しんでいっただろ。木の根もよけ、湿度のある岩を手でさぐり、呼吸が楽になる。

洞窟コース、安徳天皇

分岐点にはきちんと標識が設置され、迷うことがない。

断崖の岩壁に、遠くからツツジが鮮やかに見える。

稲村ダム調整池、ロックフィルダム

ダム事務所、トイレ